



まんごく 万斛広場だより

(第 38 号)

令和 6 年 12 月 7 日 発行

編集発行

旧鈴木家屋敷跡地活用協議会（会長：岩井正次）

（浜松市積志協働センター 積志地区自治会連合会 内）

事務局

NPO 法人旧鈴木家跡地活用保存会（理事長：村木正彌）

（連絡先 村木正彌 携帯 090-1234-1877）

本号は、前 37 号（令和 6 年 8 月 31 日発行）以降の万斛庄屋公園における活動を紹介するものです。
（編集担当：川崎 原稿提供：村木・池田・竹内・花井・川崎）

広場の色も秋の深まりを感じるようになって来ました

「新しい花壇づくり」の話です

以下の 3 条件を適える花壇づくりを専門家、市公園課、地元グループと協働で 7 月より開始し、11 月末には完了予定で進めています。

- ① 季節毎に建屋・屋敷林・田んぼ・用水路などが似合いの景観になる。
- ② 季節毎の植替えなど、維持管理の手間や経費の少ない花壇にする。
- ③ 雑草繁茂との戦いに負けない環境作りと除草対策がなされている。

公園内 6 カ所に花壇を設け、明るさ優しさを感じる造りにと、11 月 3 日、公園課以下 8 団体 80 人が集まり、花壇創造の専門家の指導の下に、植物の特性を生かした多年生の花の苗を多く植え込みました。

更には田んぼにレンゲの種も撒きました。来春には満開の花、そう「万斛花屋敷」が出現すると思います。訪れる人を楽しませてくれ、より一層公園の魅力が増すことと確信しています。



万斛庄屋公園に関わっている団体のみなさんが一堂に会しました

「懇親会」の話です

10 月 5 日 関係者のみなさんと、これからの公園づくりへの思いを語り合いました。21 年前の 2003 年に市へ「鈴木家を歴史公園に整備して欲しい」と要望書を提出したことから始まった公園づくり、地域としてさまざまに活動し、市もその思いに添えて頂き、今年 3 月に万斛庄屋公園として正式にオープンしました。今日、こうしてこの会が開催されたことに感慨深いものがあります。参会者として…「松川電気」（公園内の建屋を改築し、古民家レストラン「鈴松庵」を運営していますが、電気・通信工事会社としての経営の他、いろいろな方面で地域貢献活動に積極的に取り組んでいます）。「庄屋の四季プロジェクト」（万斛庄屋公園を活用したイベントを企画・開催し、豊かなまちづくりを進めています）。その他いくつかのグループや個人の方々と交流でき有意義なひとときでした。



緑の素晴らしい公園広場ができた。今日はやるぞ！

「グラウンドゴルフ初打ち」の話です

そこで見たのは、50 メートルの距離のコース。みんなが 3 回また 4 回、中には 6 回という声も聞こえてきた。少しおかしいのかと思いきや、さにあらず、自分が打っても 2 回の時もあれば 3 回でやっとのときもあった。飛ばそうとして力任せに打てば 10 メートルしか飛ばず……。

真っ直ぐに飛ばそうと打てば横の木に当たり、まるでキツツキである。芝でのグラウンドゴルフは簡単に考えたがそうではなかった。まず距離が出ない。小石や草の根っこで真っ直ぐに飛ばない。こんな筈ではない。自分の力を信じて、これからも芝や草の根っこ仲良くやって行こうと思った。結果よりもやれる楽しみが大きい。

楽しみを増やすには広場の整備が大事だ。グラウンドゴルフやる人、芝刈り・草刈りに協力してくださいな。（グラウンドゴルフの愛好家が、弾む心を寄せてくれました）



作って、遊んで、みんなで科学を楽しもう！

「ミニ科学の祭典」の話です

11 月 16 日 今年は広い芝生の上や屋敷林の中でゆったり、のびのびと開催でき、120 名余の親子に來場いただきました。季節とともに歴史を感じる風情の中で、「ビー玉万華鏡」「ホバークラフト」「恐竜の卵」「紙ヒコーキ」「紙コップ・ブーメラン」「どんぐりコマ」「キツツキ」「工作体験」などのブースで親子一緒に工作を体験、科学の楽しさや面白さを知ってもらいました。

子どもたちは真剣な眼差しで夢中になって工作に取り組み、作ったもので楽しそうに遊んでいました。更には「ターザンロープ」では木と木に渡したロープで木に登ったり、ブランコをしたり、また「フリー交換会」では多くの品物が並び、「ゴムパチンコ射撃」では獲物（空き缶）を狙う子供たちの真剣な目。その横からは賑やかな笛と太鼓が聞こえて來ました。「遠州大念仏」の実演です。來場者も一緒になって太鼓を叩きました。

本イベントの主催は、子どもたちに科学の楽しさを伝えている「浜松理科教育研究会」ですが、その他 6 団体の協力・協賛を得て楽しい賑やかなイベントになりました。



万斛庄屋公園はまた、小学生の野外教室の場

「稲刈りとオイモ掘り」の話です

この活動も見逃せません。9 月 28 日には近くの中郡小 5 年生が場内の田んぼで「稲刈り」をしました。これはこの 6 月 1 日に彼ら自身が田植えしたもので、子供たちが「中郡米」とブランド名！をつけています。

もう 1 つが 11 月 8 日に公園脇にある畑で 1 年生が「イモ掘り」をしたことです。こちら

も 6 月 19 日に彼らが苗を植えたものです。ブランド名？ 「万斛のオイモ」と言っています。

どちらの活動も、NPO&帰一会のメンバーが応援している万斛庄屋公園の風物詩です。



感動と、笑いと、ホッカホカの三重奏

「盲導犬セミナー」の話です

「松川電気」の社会貢献事業の 1 つです。

11 月 23 日、まず「浜松視覚特別支援学校」の先生が、自身目が不自由な身ながら明るく生活している様子を話してくれました。

続いて「日本盲導犬協会」の指導員と「盲導犬（女の子でした）」が一緒になって、目の

不自由な人を支える様子を実演を交えて紹介しました。“凛として声出さず”の彼女（ワンです）の姿に、集まった人たちは“真として声なし”。しばし感動のひとつときでした。

その後に行われたのは「流通元町図書館」のみなさんによる絵本の読み聞かせや紙芝居。こちらの方はわんぱくワンちゃんが出てきたりして大賑わい。孫を連れて來た（連れて來られた？）あるジ〜ジ、「その昔、水飴舐めながら紙芝居を見たことを思い出したよ」

終わって、來場者の皆さん、万斛応援隊（NPO&帰一会）がケム（煙）にむせながら焼いた「石焼イモ」のホッカホカを味わいながら帰って行きました。楽しい 1 日でした。



（編集後記）

今号はいろいろ紹介する内容がありました。その第一が芝生化された広場における活動が戻ってきたことだと思います。併せ松川電気さんのご好意による帰一庵内でのイベントも増えました。

万斛庄屋公園を愛する方々がより多くなることを願っています。（川崎）